

すべての生命を支える「水」

山添村立山添中学校 三年

中永 映里

「水」は、私たち人間にとってなくてはならない重要な資源だ。同様に、植物、動物、昆虫など、全ての生命にとっても水は必要だ。水は植物も、ヒトも、虫も、みんなが平等に使う権利がある。しかし今、私たち人間は水を独占しているのではないだろうか。全ての生き物が使えるはずのきれいな水を、好きなだけ使い、好きなだけ汚し、また、その水さえも少なくしているのではないだろうか。きれいな水をみんなが平等に使えるためにも、私たちは何かすべきだと思う。

私の住んでいる山添村は、豊かな自然に恵まれている。土地面積六十六・五六平方キロメートルのうち、約六十五パーセントが山林だ。そして私の住んでいる遅瀬には、名張川に注ぐ遅瀬川が流れている。小さい頃、よく

父や姉と一緒にその川へ遊びに行ったことがある。ヤマメやアユなど、たくさん魚がスイ泳いでいた。

今でも私はほぼ水に困らず、好きな時に好きなだけ水を使っている。手を洗ったり、料理をしたり、水を使う場面は様々だ。だからこそ、私たちは余計に水を大切にすることを高めていく必要がある。

私たちが住んでいる日本は、世界各国の平均年間降水量千ミリメートルと比べ約千六百ミリメートルだ。そうで、水に恵まれた国だといえるだろう。しかし世界では、年間降水量が少なくなってきたり、着々と砂漠化が進んでいるのだ。

中学校一年生の時、私は砂漠化について調べたことがある。「砂漠化」というのはもと

もともと砂漠だった地域は含まれず、人の住んでいた所や植物が生えていた所が気候変動や人間の活動により、土地が荒れ、自然の営みが破壊され、不毛の大地に変化することを言うそうだ。砂漠化は、約八十四パーセントが人間の活動によって進んでいる。残りの約十六パーセントは気候変動のためだが、それに人間が関係していないとは言えない。木を守るために、そしてその木を育てるためにも、「水」は必要だ。

私たちの生活の中では、大きく分けて「生活するための水」、「楽しむために使われる水」、「産業・工業で使われる水」の三つがある。一つ目の「生活に使われる水」は、排泄や炊事、洗濯など、私たちが生きていくために必要なものだ。二つ目の「楽しむために使われる水」は、施設のプールや公園の噴水などだ。最後の「産業・工業で使われる水」は、水田や畑、工場などで使われる水だ。

このように様々な場面で使われ必要となってくる水は、人以外の生き物にとっても必要なのだ。だからこそ私たちが率先して、水を支えていかなければならない。今問題になっ

ている水質汚濁や水不足は、ほとんどが人間の活動によるものだ。しかし、その問題を解決できるのも、全ての生き物が平等にきれいな水を使えるようにできるのも、私たち人間なのだ。

実際に今でも、世界の水問題を解決するために頑張ってくれている人たちがたくさんいる。その人たちの一員に、私も入りたいと思った。私にも何かできることがあるはずだ。例えば、水を使う時に少しでも節水を意識したり、川や海のごみ拾いをしたり、そんなことでもいいのではないか。どんなに小さいなことでも、するとしなないとでは大違いだ。大事なのは、そのような行動を続けていくということだ。「ちりも積もれば山となる。」本当にその通りだと私は思う。一人一人が少しでも水問題を意識し、何か自分にできることを続けることによって、いつか水問題もなくなると、私は信じている。

現在も水問題は悪化している。しかし、水問題を解決しようとする人たちも増えている。ここは確かだ。